

令和元年度

第4回 八代市地域公共交通会議 会議録

令和2年1月28日作成

八代市地域公共交通会議 会長 田中 浩二

【日 時】 令和2年1月17日（金） 14時00分～15時00分

【場 所】 八代市鏡支所 3階 大会議室

【出席者】 27名 (敬称略)

区分	団体・役職	氏名
会長	八代市 副市長	田中 浩二
委員	産交バス（株）八代営業所長	坂田 秀貴
委員	（株）麻生交通 代表取締役	麻生 伸一 代理：本田 文秋
委員	（一社）熊本県バス協会 専務理事	富田 廣志
委員	（一社）熊本県タクシー協会 専務理事	吉田 光義 代理：片岡 正和
委員	八代市タクシー協会 会長	神園 喜八郎 代理：宮島 正英
委員	八代市地域婦人会連絡協議会 会長	三栗野 恵美子
委員	八代市老人クラブ連合会	米田 常男
委員	八代地域 代表	徳田 武治
委員	坂本地域 代表	谷口 信吾
委員	鏡地域 代表	岡田 敏夫
委員	東陽地域 代表	後村 新一
委員	泉地域 代表	竹村 博文
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官（企画調整担当）	西脇 考志
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送・監査担当）	岩本 輝彦
委員	国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所 八代維持出張所 所長	松尾 仙彦
委員	熊本県県南広域本部 維持管理課長	北村 司 代理：後藤 光男
委員	八代市 建設部 土木課長	小原 聖児
委員	八代警察署 交通第一課長	水下 睦文
委員	熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 教授	柴田 祐
委員	八代市校長会 八代第四中学校 校長	木本 芳照
委員	九州旅客鉄道（株）熊本支社 営業課長	城戸 洋平
委員	おれんじ鉄道（株） 代表取締役社長	出田 貴康 代理：小原 信
委員	熊本県交通政策課 課長補佐	浦本 雄介
委員	氷川町 総務課長	稲田 和也
委員	八代市 経済文化交流部長	山本 哲也 代理：岩崎 和也
委員	八代市 総務企画部長	松村 浩

【欠席者】 2名

(敬称略)

区分	団体・役職	氏名
委員	千丁地域 代表	田本 定利
委員	全九州産業交通労働組合 書記長	貢 博之

【事務局】 企画政策課 課長 福本 桂三
企画政策課 課長補佐 山本 浩司
企画政策課 企画係長 松下 博明
企画政策課 主査 塚本 潤
企画政策課 主事 内田 圭亮
企画政策課 主事 本田 平

【議題】

◆協議事項

1. 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

◆報告事項

1. 再編2年経過後の路線バス・乗合タクシーの利用状況について
2. 産交バス株式会社の年末年始特別ダイヤ運行実施について

【公開状況】 公 開

【傍聴者数】 0名

【所管課】 企画政策課 企画係 (直通：33-4104)

【発言要旨】

◆協議事項

1. 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

説明内容については、会議資料（P1～P6）のとおり。

<質問・意見>

なし

◆報告事項

1. 再編2年経過後の路線バス・乗合タクシーの利用状況について

説明内容については、会議資料（P7～P9）のとおり。

<質問・意見>

A 委員： おれんじ鉄道でございます。

今頂きました説明のなかで、8ページにバスの利用者数が記載されております。このなかで、田浦線についてでございますが、弊社の路線と競合する関係にございます。路線バスの運賃上限は200円でございますが、おれんじ鉄道の八代、御立岬間は640円となっており、その差が440円となっております。

8ページの資料を見てみますと、田浦線の利用者数について平成28年はいったん減少していますが、平成29年の10月から上限200円運賃となったことで、利用者数が大きく伸びている状況にあります。

一方、おれんじ鉄道の利用者数を見てみますと、事業年度の考え方や乗降者数の数え方等に多少違いがあると思われるので、完全に一致はいたしません。対前年度比で平成29年度、30年度ともに減少をしております。特に、再編関係で影響があった平成30年度におけるおれんじ鉄道の利用者数は、対前年度比で1,546人減、パーセントで言いますと4.7%減となっております。自然減を考慮した場合の527人減、1.6%の減と比較しましても、約1,000人以上の減、パーセントで言いますと3.1%低くなっておりますが、利便性では鉄道も負けてはないかと思っております。

たとえば、まだ説明はございませんが、12ページに記載されている田浦線の運行時刻を見ますと、8往復設定されていますが、おれんじ鉄道は上りが19本、下りが18本設定されておりまして、本数でもかなり差があるなど、利便性の面では鉄道に分があるかと感じておりますが、乗客数の点で差が出ている主な原因は運賃の違いであると認識しております。

バスと鉄道はともに公共交通を担う重要な輸送手段であり

ますので、相互に協力、補完しあって、住民の足として機能していく必要があると考えております。

先ほどの再編推進事業の説明のなかでも、弊社のポスターを掲示していただくなど、協力していただいているとは十分承知しておりますが、弊社の経営状況は大変厳しく、熊本県や八代市などからの補助金でなんとか経営を継続している状況でございます。また、現在5ヶ年の中期経営計画の3年目を迎えておりまして、そのなかで運賃改定の検討を掲げております。

したがいまして、弊社の運賃と田浦線の運賃の価格差の縮小についてご検討いただきたいと思います。

事務局： おれんじ鉄道については、本市における通勤、通学の生活交通として重要な交通機関として認識しております。

今回、地域公共交通網再編形成計画の期間が令和2年9月末で終了いたします。今後、第2次地域公共交通網再編形成計画を策定していくなかで、ご指摘いただいた件についても十分検討いたしまして、関係自治体であります芦北町も含めまして、おれんじ鉄道様と協議をさせていただきながら、再編に向かってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

田中会長： 以前から指摘があっている事項とは思いますが、今後事務局とおれんじ鉄道で十分な協議をして、再編につなげていただければと思います。

B 委員： 7ページの資料になりますが、平成30年度と令和元年において、バス、乗合タクシーともに輸送人員が増えている一方で、負担額も増えているのですが、こういった計算になっているのでしょうか。もっと輸送人員が増えないと、負担額が減らないのか、関係が分かりにくいかなと思います。

事務局： 輸送人員が増えているのに負担額が増えているのはなぜかということですが、路線バスにつきましては人件費が高騰しており、その関係でキロ当たりの運送費用が運賃収入以上に増加しているということが原因でございます。

乗合タクシーは、特に予約便については運行回数が増加すると運行経費が多く発生しますので、補助金の増額につながっていくということになっております。

田中会長： 1回運行したら赤字になるから、補助金が増加するということですね。利用者が増えても、その分運行回数が増えると、赤字額が積み重なっていくということですね。

事務局： そのとおりでございます。

2. 産交バス株式会社の年末年始特別ダイヤ運行実施について

説明内容については、会議資料（P10～P13）のとおり。

<質問・意見>

なし

◆その他

○事務局から次期八代市地域公共交通網再編形成計画の策定スケジュール等について説明。

C 委員： 今説明がありました。次期再編計画の策定をするということですが、鏡町では昨年地元タクシー会社2社がなくなって、神園交通さんと八代タクシーさんが入って、なんとか運用できている状況でございます。

しかし、海岸沿いの野崎地区や北新地地区は、公共交通機関までの距離が遠いところで約4から5キロ離れており、特に野崎地区では15名の高齢者が免許を返納されまして、それに伴い、公共交通の無料乗車券を交付されましたが、それを使うバス停までどうやっていくかということが切実な問題となっております。

来年の再編に向けて、出来るならば公共交通の不便地区について、新たな乗合タクシー等の運用について検討をお願いしたい。この問題は、鏡町まちづくり協議会や区長会でも重要な課題として様々な検討をしながら、市のほうにもお願いをしていきたいと考えております。

事務局： 次期計画を作るにあたって、各地域に出向いてお話を聞いているところでございます。C委員様のご意見に関して、まちづくり協議会からもご意見を頂いております。

今後は、乗合タクシー等を導入できるのか、できないのか、運行形態はどうするのかなどを検討しながら、地域とも意見交換をしながら、進めさせていただきたいと考えております。

田中会長： 他にございませんでしょうか。

先ほど事務局からありました説明以外でも構いませんので、質問等ございませんでしょうか。

もしございましたら、お配りしております意見書にご記入いただき、事務局までお送りください。